

ドイツ語ドイツ文学専攻

修 士 論 文

執筆要領

(2019 年度版)

目次

1. 提出	3
1. 1. 正本（教務課提出用）	3
1. 2. 副本（ドイツ語圏文化学科事務室用）	3
2. 論文の構成	4
3. 書式	4
3. 1. タイトルページ	4
3. 2. 目次	5
3. 3. 本文	5
3. 4. 章・小節の題（見出し）	5
3. 5. レジюме	5
4. 執筆上の注意	6
5. 「引用」・「参照」・「脚注」・「参考文献」について	7
5. 1. 「引用」の方法	7
5. 1. 1. ドイツ語の文章を引用する場合	7
5. 2. 「参照」の方法	8
5. 3. 「脚注」の使い方	8
5. 4. 「参考文献一覧表」の作り方	8
5. 4. 1. 「参考文献一覧表」の書式	8
5. 4. 2. 参考文献一覧表の見出し	8
5. 4. 3. 参考文献の記載順	9
6. 文献情報の書き方	9
6. 1. 脚注への「引用元」情報の書き方	9
6. 2. 脚注への「参照元」情報の書き方	10
6. 3. 参考文献一覧表への文献情報の書き方	10
a) 単行本	10
b) 論文集等に掲載されている論文	10
c) 紀要・雑誌などに掲載されている論文	11
7. インターネットからの情報を参考文献にする場合	11
7. 1. インターネット情報の記載方法	12
7. 2. インターネット情報の記載例	14
a) 報道機関（新聞やニュースの公式サイト）の記事	14
b) 公的機関や研究機関などで公表された調査資料や統計など	14
c) その他（企業の公式サイト、個人サイト、動画など）	14
d) 大学や研究機関において公表された雑誌論文・学術論文などの PDF 資料	15

e) 政府の白書などのウェブ版	15
8. 新聞を参考文献にする場合	15
9. 映画などの DVD を参考文献にする場合	16
10. さいごに.....	17
【付録】書式一覧表（日本語文献のみ。ドイツ語文献については各ページ参照）	17

1. 提出

- 提出期限： 2020年1月10日（金）16時まで
 - これは、事務手続き上の最終期限です。もっと早く提出するように心がけてください。
 - 提出物に間違いがないか事前にチェックする必要がありますので、正本、副本ともに必ず事前に学科事務室に持ってきてください。
- 提出場所： 教務課（正本）およびドイツ語圏文化学科事務室（副本）
 - 提出に際しては印鑑が必要です。絶対に忘れないで下さい。

1.1. 正本（教務課提出用）

- 学科事務室にて配布するファイル（コクヨ フ-550）にとじて提出。
 - 言語学関係は青色のファイル、それ以外のテーマは赤色のファイル。
 - このファイルの表紙にも、後述する「タイトルページ」と同じ内容の情報を印刷して貼ってください。また、背表紙にタイトルと氏名を書いて貼ってください。

【日本語で書く場合、以下のもの全てに穴を空けて、ファイルにとじる】

- 1) ドイツ語レジュメだけをホッチキスでとめたもの
- 2) ドイツ語レジュメ
- 3) 日本語レジュメ
- 4) 論文（タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料]）

【ドイツ語で書く場合、以下のもの全てに穴を空けて、ファイルにとじる】

- 1) 論文（タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料]）だけをクリップでとめたもの
- 2) 日本語レジュメ
- 3) 論文（タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料]）

1.2. 副本（ドイツ語圏文化学科事務室用）

- 副本は、2部提出します。
- 以下の順番で、学科事務室で配布する緑色のファイル（FLATFILE OSFE-A4S-G）にとじて提出。
 - このファイルの表紙にも、後述するタイトルページと同じ内容の情報を印刷して貼ってください。また、背表紙にタイトルと氏名を書いて貼ってください。

【日本語で書く場合、以下のもの全てに穴を空けて、ファイルにとじる】

- 1) ドイツ語レジュメ
- 2) 日本語レジュメ
- 3) 論文（タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料]）

【ドイツ語で書く場合、以下のもの全てに穴を空けて、ファイルにとじる】

- 1) 日本語レジュメ
- 2) 論文（タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料]）

2. 論文の構成

- 論文は、「序論」 - 「本論」 - 「結論」の3部から構成されます。例えば論文が5章から成る場合は、第1章が序論、第2章～第4章が本論、第5章が結論となります。
- 「序論」では、研究対象の定義、研究対象に対する概観、研究の方法（分析法）、そして問題提起（何を明らかにしたいのか？）等を述べます。
- 「本論」では、「序論」で述べた方法で研究対象について分析・論述をします。最後に「結論」では、「序論」で示した問題提起に対する答えを示します。
(過去の卒業論文・卒業研究は、学生閲覧室のキャビネット内に保管されています。自分自身のテーマに近いものをいくつか見ることで、論文構成についての具体的なイメージがつかめるので、一度見てみることをお勧めします。)

3. 書式

3.1. タイトルページ

- タイトルページには、以下の情報を記載します。
 - 「20〇〇年度 修士論文」（中央寄せ、14ポイント）
 - 「日本語タイトル」（中央寄せ、20ポイント）
 - 「日本語副題」（中央寄せ、14ポイント）
 - 「ドイツ語タイトル」（中央寄せ、20ポイント）
 - 「ドイツ語副題」（中央寄せ、14ポイント）
 - 「学籍番号」（右寄せ、16ポイント）
 - 「氏名」（右寄せ、16ポイント）
 - 「指導教授名」（右寄せ、16ポイント）

※ドイツ語で執筆する場合、日本語のタイトルは必要ありません。

※副題があるときには、メインタイトルと副題のあいだ（副題の両側にではない）に「——」を付けてください（Wordでは、1つ「—」を入力し、その「—」を選択し、

[ホーム]タブ—[段落]グループ—[拡張書式]▼[文字の拡大/縮小]→200%とすると「——」となる。その他の方法でも、印刷したときにわかりやすい表記となっていれば可)。

※メインタイトルの後に「。」や「.」を付けないでください。

3.2. 目次

- 「本文」中の各章・小節の題とその章・小節が始まるページを、日本語なら「MS ゴシック」、ドイツ語なら「Arial」で、いずれも 10.5 ポイント で書きます。

3.3. 本文

- 執筆枚数
 - 日本語で書く場合：4万字以上、あるいはA4（40字×30行）で34枚以上
 - ドイツ語で書く場合：A4（半角80字×30行）で34枚以上
- 余白：上下左右に30mmずつ
- 書式：日本語なら「MS明朝」、ドイツ語なら「Times New Roman」で、いずれも10.5ポイント
- ページ下部中央に、ページ番号を算用数字でつけます。
- 句読点
 - 和文：全角の「、」と「。」
 - 欧文：半角の「,」と「.»
- カッコ
 - 和文：全角の各種カッコ
 - 欧文：半角の各種カッコ
 - 和文中であっても、欧文を引用する場合やドイツ語の文献名を挙げる場合には、半角のドイツ語入力の引用符（„“）[99, 66] を使ってください。

3.4. 章・小節の題（見出し）

- 各章・小節の題は、日本語なら「MS ゴシック」、ドイツ語なら「Arial」で、いずれも12ポイントで書きます。
- 章・小節の題と本文とは、10.5ポイントで1行分空けます。

3.5. レジюме

- 執筆枚数：日本語、ドイツ語、ともに A4 で 2～3 枚程度。
- レジューメの本文の書式は上述「2.3. 本文」のドイツ語で書く場合の書き方にあわせてください。
- レジューメには、日本語／ドイツ語それぞれの論文タイトルと氏名を記載します。下記的情報を 1 行目から、上から順に記載します。
 - 「日本語／ドイツ語タイトル」（中央寄せ、12 ポイント）
 - 「日本語／ドイツ語副題」（中央寄せ、10.5 ポイント）
 - 「学籍番号」（右寄せ、10.5 ポイント）
 - 「氏名」（右寄せ、10.5 ポイント）
- 氏名に続けて 1 行スペースを空けて、本文を始めてください。
- 本文とは別に、レジューメだけでページ番号をつけます。

4. 執筆上の注意

- 扱うテキストは、ドイツ語原典があるものについてはドイツ語で読むこと。
- 執筆にあたっては、執筆者自身の考察部分であるのか、先行研究に依拠した「引用」の部分であるかをつねに区別してください。
 - 本文中、脚注中を問わず、引用する場合には、出典とページ数を明記する。
 - 参考文献（インターネットによる情報も含む）に書かれた言葉を、出典を明記しないで書くことは無断引用であり、剽窃行為にあたります。
- いったん提出した論文は、あとになって別のものと差し替えることはできません。内容上の問題だけでなく、誤字脱字もふくめて、何度もよくチェックした上で提出してください。
- ドイツ語で書く場合、それぞれの単語のあいだだけでなく、ピリオドやコンマ、カッコ（閉）のあとにも半角スペースを入れ忘れないようにしてください。

良い例) Das 1. Buch Mose (Genesis) fängt mit der Schöpfung des Lebens im Garten Eden an.

悪い例) Das 1.Buch Mose (Genesis)fängt mit der Schöpfung des Lebens im Garten Eden an.

5. 「引用」・「参照」・「脚注」・「参考文献」について

先行する研究を何ひとつ参考にせずにレポートや論文を書くことはできません。しかし、先行する研究を（その文字列のみならずアイデアを含めて）そのまま自分の文章やアイデアのように使うことは、著作権法違反にあたります。先行研究を参考にする場合には、誰のどの文献を参考にしたのかを明記し、自分の文章・アイデアと区別する必要があります。その方法には「引用」と「参照」があります。いずれの場合も、脚注に出典（情報源）を明記し、なおかつその文献を誰にでもわかるように文章末の参考文献一覧に列記する必要があります。以下、その具体的な方法を述べます。なお、ここに説明のないものについては、指導教員の指示に従ってください。

5.1. 「引用」の方法

- 「引用」とは、自分の文章の中で、自分の論の補強や具体化等のために、別の文献の語句や文章をそのまま使用することをいいます。
- 複数行にわたる長い文章を引用する際は、9ポイント、日本語なら「MS明朝」、ドイツ語なら、Times New Roman“を使い、左側を2文字分下げ、上下を10.5ポイントで1行分ずつ空けます。引用文の末尾に、脚注を入れて引用元情報を示します。（サンプル①参照）
- 引用するのが数単語から1行程度の場合は、カギカッコでくくって本文に入れ、そのカギカッコの直後に脚注を入れて引用元情報を示します。

例) この作品もまた、「知識人による創作」¹である。

- また、いずれの場合も、使用した資料の引用元情報を論文の最後に参考文献一覧として示します。
- 参考文献一覧や脚注への引用元情報の記載の仕方は「文献情報の書き方」（9ページ以下）を参照してください。
- 仮名遣いや句読点など引用元と一字一句違わないように気をつけてください!

5.1.1. ドイツ語の文章を引用する場合

- ドイツ語の文章を複数行にわたり引用する場合には、その原典を本文中に引用し、直後に日本語訳をつけます。
- 筆者＝引用者の訳であるのか、既存の訳を用いたのかを明記すること!

¹ 阿部（1990：408）。

5.2. 「参照」の方法

- 情報源として参考にただで文章を文字通り引用していない場合や、その内容を要約して書いた場合は、「引用」ではなく「参照」になります。
- 参照した内容が特定の語句や文の一部の場合には、その語句や部分のすぐ後に参照元情報を示します。参照した内容が文全体の場合は句読点の前に脚注を入れて、参照元情報を示します。
- 引用と同様に、参照した資料の書誌情報を論文の最後に参考文献一覧として示します。

5.3. 「脚注」の使い方

- 脚注には、引用元情報や参照元情報を書きます。引用元情報の記載の仕方は「文献情報の書き方」(9 ページ以下)を参照してください。
- そのほか、脚注には、本文に書くほどではないものの、明示しておくのが望ましい情報を書き込むことができます。
- 脚注内の文は、9 ポイント、日本語なら「MS 明朝」、ドイツ語なら„Times New Roman“で書きます。

5.4. 「参考文献一覧表」の作り方

5.4.1. 「参考文献一覧表」の書式

- レポート・論文執筆に際して引用・参照した文献をまとめて一覧表を作成し、本文の後に掲載します。これを、「参考文献一覧表」と呼びます。
- この一覧表には文献に関する情報だけを載せ、自分が引用または参照したページについては記載しません。
- 参考文献一覧表は、和文は 10.5 ポイントの「MS 明朝」、欧文は 10.5 ポイントの„Times New Roman“で表記します。
- 参考文献の情報が複数行にわたる場合、二行目以降を 1 字下げます（各書式のサンプルを参照）。
 - Word の場合、該当箇所を右クリック→「段落」を選択し、「インデント」のところの「最初の行」を「ぶら下げ」に、「幅」を「1 字」に設定します。

5.4.2. 参考文献一覧表の見出し

- 見出しは、和文なら「参考文献」、欧文なら„Literaturverzeichnis“とします。
 - フォントは、和文は 12 ポイントの「MS ゴシック」、欧文は 12 ポイントの„Arial“を使用します。また、見出しのあいだには 1 行スペースを入れます。
- 書籍や雑誌論文のみならず、インターネット情報、新聞、DVD 等を利用した場合には、「書籍・論文」「インターネット情報」「新聞」「DVD」等に分けて、それぞれの一覧表

を作ります。

- また、場合によっては、
 - 「一次文献」 „Primärliteratur“ : 文学作品など、中心的な研究対象とした文献
 - 「二次文献」 „Sekundärliteratur“ : 一次文献に関して書かれた、またはそれ以外に参照した全ての文献を分けて、それぞれの一覧表を作ります。
- それぞれの見出しは、和文は 12 ポイントの「MS ゴシック」、欧文は 12 ポイントの „Arial“ で表記し、一覧と一覧の間に一行スペースを空けます。

5.4.3. 参考文献の記載順

- 参考文献一覧表に挙げる文献は、著者（または編集者）の姓の順に並べます。
 - 和書と洋書を分けて和書をアイウエオ順に、洋書を ABC 順に並べる方法や、和書と洋書を分けずにすべて ABC 順に並べる方法があります。
 - 同一著者の文献を複数挙げる場合には、出版年の順に並べます²。
 - 著者名が不明の場合には、書名・サイト名の順に挙げます。

6. 文献情報の書き方

引用・参照する文献についての情報は、一定のルールに従って記述します。以下、脚注への記述の方法と参考文献一覧への記述の方法を示します。

6.1. 脚注への「引用元」情報の書き方

- 引用元の情報は、以下のように脚注内に記載します。

著者の姓（発行年：[ページ数]）。 [年・ページともに数字のみ]

例 1) 阿部 (1978 : 24)。 例 2) 阿部 (1978 : 24-25)。

例 3) Borst (1983: 132)。 例 4) Borst (1983: 132-133)。

- 数字は半角の使用を推奨します。
- 和書の場合、カッコとコロンは全角で、末尾は読点にします。
- 洋書の場合、カッコとコロンは半角で、コロンの後に半角スペースを入れます。末尾はピリオドにします。

² 同一著者の出版年の同じ文献が複数ある場合には、出版年の後にアルファベットをつけて区別します。
例) 熊谷徹 (2015a) 『日本とドイツふたつの「戦後」』集英社。熊谷徹 (2015b) 『ドイツ人はなぜ、1年に150日休んでも仕事が回るのか』青春出版社。

6.2. 脚注への「参照元」情報の書き方

- 参照元をあらわす場合、引用の場合と同様に文や語句の後に脚注を入れます。
- 脚注内には、日本語で書く場合は、引用と同様の表記のあとに「参照」とつけます。
- ドイツ語で書く場合、文頭の場合は、例 2) のように、„Vgl.“を前に書きます。文中の場合は、例 3) のように語頭ではないので、„vgl.“とします(vgl. は、vergleiche の略です)。
例 1) 阿部 (1978 : 24) 参照。 例 2) Vgl. Borst (1983: 132-133).
例 3) Zu Details dieser Repräsentation vgl. Borst (1983: 132-133).

6.3. 参考文献一覧表への文献情報の書き方

- 「参考文献一覧表」には、以下のようにそれぞれ文献情報を記載します。

a) 単行本

【日本語文献】

著者 (出版年) 『書名』 [第○版] (編集者・訳者) 出版社。

- 「版」の表記は、初版であれば必要ありません。また「刷」は、表記する必要がありません。出版年は、使用する版が出た年を表記します。

例 1)

ゲーテ、ヨハン・ヴォルフガング (2011) 『原形ファウスト』 (新妻篤訳) 同学社。

例 2)

田中共子 (編) (2009) 『よくわかる学びの技法』 [第 2 版] ミネルヴァ書房。

【ドイツ語文献】

著者 (出版年): 書名 [イタリック体で] . 出版地: 出版社.

例)

Wolf, Christa (1989): *Sommerstück*. Berlin u. Weimar: Aufbau.

b) 論文集等に掲載されている論文

【日本語論文】

著者 (出版年) 「論文名」 編集者名 『掲載元の書名』 出版社、掲載ページの範囲。

例)

脇阪豊 (2005) 「テキストからメディアへー『くりかえし』機能を中心にー」 杉谷眞佐子他
編著『ドイツ語が織りなす社会と文化』 関西大学出版部、71~89 ページ。

【ドイツ語論文】

著者 (出版年): 論文名. In: 編集者名 (Hrsg.): 掲載元の書名 [イタリック体で] . 出版地: 出版社, 掲載ページの範囲.

例)

Meyer, Reinhart (1983): *Das Nationaltheater in Deutschland als höfisches Institut. Versuch einer Begriffs- und Funktionsbestimmung.* In: Roger Bauer u. Jürgen Wertheimer (Hrsg.): *Das Ende des Stegreifspiels – Die Geburt des Nationaltheaters.* München: Fink, S. 124-152.

※単行本、論文集ともに、著者や編集者が複数いる場合には、筆頭の著者名や編集者名のあとに「他」と入れます。2人程度の場合には「/」で著者名をつなぐことも可能です。ドイツ語の文献の場合は、「他」は「et al.」あるいは「u. a.」と表記します。「/」は「/」あるいは「u.」とします。

c) 紀要・雑誌などに掲載されている論文

【日本語論文】

著者 (出版年) 「論文名」 発行元『掲載元の書名』第○号、掲載ページの範囲。

例)

松下亮 (1974) 「ハイネとベルネー—伝記的にみた両者の交渉前史」九州大学独文学研究会『独仏文学研究』第24号、69～86ページ。

【ドイツ語論文】

著者 (出版年): 論文名. In: 掲載元の書名 [イタリック体で] . Bd. ○, 掲載ページの範囲.

例)

Bähr, Jürgen (1999): *Tag der 6 Milliarden Menschen. Zur jüngeren Entwicklung der Weltbevölkerung.* In: *Geographische Rundschau.* Bd. 51, S. 570-573.

7. インターネットからの情報を参考文献にする場合

- インターネットからの情報には、信頼性が不明なものが多く存在します。ブログやWikipediaは、その良い例です。他方、非常に貴重な情報や最新の情報も含まれているのも事実です。引用する際には、慎重に見極めてから以下の基本情報を確認して下さい。基本情報が分からないものは引用しない方がよい³、と考えて下さい。
- 紙媒体でも発行されている資料のウェブ版、あるいは紙媒体での出版形態に準じたウェブ上資料 (学術雑誌、政府発行の資料、研究機関発行の調査資料等) については紙媒体の書誌情報にURLと参照日を加えるだけでかまいません (判断が難しい場合は担当教員等に相談して下さい)。以下は、これに該当しないインターネット情報の記載方法を説明したものです。

³ もちろん、そのようなサイトでも一次資料としてどうしても必要なこともあります。その場合は担当教員等と相談の上、引用・参照するようにして下さい。

7. 1. インターネット情報の記載方法

- 基本情報として、1. (可能なら) 該当ページ・記事の著者、あるいはサイトの管理者・団体の名称、2. そのページの更新年(月日)、3. (可能なら) 記事・論文・資料タイトル、4. 参照ページのタイトル、5. URL、6 参照日(そのページを見た人の参照日時)を確認してください。

例 1) <http://www.moellner-museum.de/eulenspiegel-museum.html>

1. サイトの管理者・団体の名称：Möllner Museum
(該当ページの著者名：不明)
2. そのページの更新年(月日)：不明
3. 記事・論文・資料タイトル：Mölln und Till – eine besondere Beziehung
4. 参照ページのタイトル：Möllner Museum | Eulenspiegel Museum
6. 参照日：2016年4月4日

- 参照ページのタイトルは、<http://www.moellner-museum.de/eulenspiegel-museum.html> にアクセスすると、大抵はブラウザの上のバーに表示されます⁴。上記のサイトにアクセスした場合、Möllner Museum | Eulenspiegel Museum が表示されます。
- サイトの管理者・団体を見つけるには、Impressum(「奥付」というページ(この例では<http://www.moellner-museum.de/impressum.html>))を確認してください。Impressumがない場合にはサイトのトップページ(この例では<http://www.moellner-museum.de/>)から判断します。

例 2) http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/ii_germany/02.pdf

1. サイトの管理者・団体の名称：内閣府男女共同参画局
(該当ページの著者名：不明)
2. そのページの更新年(月日)：2015年3月
3. 記事・論文・資料タイトル：諸外国における女性の活躍推進にむけた取組に関する調査研究
4. 参照ページのタイトル：男女共同参画に関する基本法制等
6. 参照日：2016年3月24日

- URLを最初のスラッシュ(/)まで削ると、内閣府男女共同参画局のサイト内の資料であることがわかります。<http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/>まで残して削ると、この資料が平成26年に作成された調査資料「平成27年度諸外国における女性の活躍推進にむけた取組に関する調査研究(平成27年3月)」であることがわかります

⁴ Firefox や Google Chrome などのタブブラウザ(見ているサイトごとに画面上部に新しいタブが出てくるタイプ)の場合は、それぞれのタブバーにサイト名が表示されています。一部しか表示されていない場合、タブのところにマウスカーソルを合わせて少し待つと、文字列が全て表示されます。

(一度クリックしているのに、色が変わっています)。そのタイトルをクリックして http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/gaikoku_research.html を開くと、目次が出てきます。表紙 (http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/gaikoku_cover.pdf) を開けるとタイトルも再度確認できます。書誌情報を記載するときには、最初に示した URL (http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/ii_germany/02.pdf) ではなく、この資料全体の URL (http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/gaikoku_research.html) を示した方が良いでしょう。

- 参考文献一覧表には、下記の通り記載します。

著者あるいは管理者・団体名（掲載年月日）「記事・論文・資料タイトルあるいは参照ページのタイトル」管理者・団体名、URL：URL（参照日：参照年月日）。

- 上の例では、以下のような書き方になります。

例 1)

Möllner Museum: Mölln und Till – eine besondere Beziehung, Möllner Museum, URL:
<http://www.moellner-museum.de/eulenspiegel-museum.html> (abgerufen am 4. 4. 2017).

例 2)

内閣府男女共同参画局（2015年3月）「諸外国における女性の活躍推進にむけた取組に関する調査研究」内閣府男女共同参画局、URL: http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/gaikoku_research.html（参照日：2016年3月24日）。

- 「著者」が不明な場合はサイトの管理者・団体の名称で代替します。いずれにしても、その記事の内容に責任を持つのが誰なのかを明確にしてください。これが明確でないような場合には、その記事は引用しないほうが良いでしょう。
- 「掲載年月日」の内、月日が不明な場合は、掲載年だけでもかまいません。掲載年も不明な場合には掲載年月日そのものを省略しますが、そのような記事は使用するべきかどうか十分に検討してください。
- サイト内の記事、論文 PDF、資料データ等の名称が明確な場合、「 」で括って記載してください。明確でない場合には「参照ページのタイトル」を代わりに記述することも可能です。
- 管理者・団体名は、その記事が「どこ」に掲載されているのかを示すために記事のタイトルの後に記述します。著者が不明な場合には著者の代わりに記述した管理者・団体名と重複しますが、新聞の無記名記事の場合と考え方は同じと思ってくだ

さい。

- 欧文の場合は、使うカッコ・記号・書体等については、「文献情報の挙げ方」以下に書いてある、ドイツ語での文献情報の挙げ方を参考にしてください。

- 引用・参照する場合は、下記の情報を脚注に記載します。

著者の姓あるいは管理者・団体名（掲載年月日）。

- 参照する場合は、末尾に「参照」とつけてください。

7.2. インターネット情報の記載例

- 基本的に、「誰が、いつ、どのようなタイトルで、何をどのサイトで発表しているのか」を明示し、参照年月日を書けば良いのですが、これが意外に難しいことがあります。素性が分からないサイトの情報は、使わないのが原則です。
- 以下に幾つかの例を挙げますが、ここでは紹介しきれなかった種類もありますので、引用の仕方が分からない場合には、指導教授の先生に相談して下さい。

a) 報道機関（新聞やニュースの公式サイト）の記事

加藤貴行（2016年3月11日）「独VW、世界販売2カ月ぶりマイナス 2月 1.2%」日本経済新聞、URL: http://www.nikkei.com/article/DGXLASGM11H75_R10C16A3FF2000/（参照日：2016年3月28日）。

Wagner, Wieland (11.03.2016), Fünf Jahre nach Fukushima: Japan setzt auf nuklearen Neustart. Spiegel Online, URL: <http://www.spiegel.de/wissenschaft/technik/fuenf-jahre-fukushima-japansungenutzte-chance-a-1081070.html> (abgerufen am 12. 11. 2015).

b) 公的機関や研究機関などで公表された調査資料や統計など

総務省（2014）「ラジオ及びテレビジョン平均視聴時間量の推移」総務省、URL: <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/field/housou05.html>（参照日：2016年1月10日）。

新聞協会経營業務部（2015年10月）「新聞の発行部数と世帯数の推移」日本新聞協会、URL: <http://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php>（参照日：2016年1月10日）。

c) その他（企業の公式サイト、個人サイト、動画など）

Volkswagen 「ストーリー 1 ポルシェ博士とドイツの国民車」 Volkswagen、URL : http://web.volkswagen.co.jp/beetle_heritage/story_01_01.html（参照日：2016年3月24日）。

Sick, Bastian (22. 9. 2015): Nach Lauten gemalt. Bastian Sick, URL: http://www.bastiansick.de/zwiebelfisch_3/zwiebelfisch/nach-lauten-gemalt (abgerufen am 22. 12. 2015).

ゲルケ、アレクサンダー（2011年10月1日）「ドイツから見たフクシマ ドイツの危機

報道についての考察」をちこち Magazine、URL: <https://www.wochikochi.jp/relayessay/2011/10/germany-fukushima.php> (参照日: 2015年12月27日)。

IKEA Deutschland (19. 3. 2016): IKEA Werbung: TV-Spot „Outdoor“ 2016. Youtube, URL: <https://www.youtube.com/watch?v=LcgGwVvasFs&spfreload=10> (abgerufen am 1. 12. 2015).

- 上述のとおり、紙媒体でも発行されている資料のウェブ版、あるいは紙媒体での出版形態に準じたウェブ上資料) については紙媒体の書誌情報に URL と参照日を加えるだけでかまいません。以下、例を挙げておきます。

d) 大学や研究機関において公表された雑誌論文・学術論文などの PDF 資料

Weiß, Wolfgang (2003): Regional-Demographie der DDR – ein bevölkerungsgeographischer Nachruf. In: *Sitzungsberichte der Leibniz-Sozietät*, Band 62, URL: http://leibnizsozietat.de/wp-content/uploads/2012/11/07_weiss.pdf (abgerufen am 12. 11. 2015).

Schäfer, Katrin (1998): *Die Verdopplung der Ungleichheit. Sozialstruktur und Geschlechterverhältnisse in der Bundesrepublik und in der DDR*. Humboldt-Universität zu Berlin, URL: <http://edoc.hu-berlin.de/dissertationen/phil/schaefer-katrin/PDF/Schaefer.pdf> (abgerufen am 12. 11. 2015).

e) 政府の白書などのウェブ版

経済産業省 (2016) 『通商白書 2016』、URL : http://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2016/whitepaper_2016.html (参照日: 2016年4月4日)。

8. 新聞を参考文献にする場合

- 引用・参照する場合は、下記の情報を脚注に記載します。

著者の姓 (掲載年月日)。

- 著者名や記者名が不明の場合は、新聞名を記載してください。
- 参照する場合は、末尾に「参照」とつけてください。

例 1) 熊倉 (2016年1月26日)。 例 2) 東京新聞 (2016年1月22日)。

- 参考文献一覧表には、下記の通り記載します。

著者 (掲載年月日) 「記事タイトル」『新聞名』。

- 著者名や記者名の記載がない場合、代わりに新聞名を記載してください。
- 欧文の場合は、使うカッコ・記号・書体等については、「参考文献の挙げ方」以下に書いてある、ドイツ語での文献情報の挙げ方を参考にしてください。

例 1)

熊倉逸男 (2016年1月26日) 「論説委員のワールド観望 大聖堂足下の悪夢」『中日新聞』。

例 2)

東京新聞 (2016 年 1 月 22 日) 「奨学金 給付型早期導入に慎重: 首相「財源など検討必要」」
『東京新聞』。

9. 映画などの DVD を参考文献にする場合

- セリフの引用やシーンの参照をする時には、下記の情報を脚注に記載します。

監督の姓／脚本家の姓 (発行年、チャプター番号、時間)。

例) Daldry/Hare (2008, Kapitel 5, 2:34-3:50).

- 参考文献一覧表には、下記の通り記載します。

名前 1 (監督) / 名前 2 (脚本) (発売年) 『タイトル』 [DVD]、(原作: [原作に関するデータ])、発行地: 発売元。

- 原作が存在する場合、原作の著者と発行年について記載してください。
- 欧文の場合は、使うカッコ・記号・書体等については、「参考文献の挙げ方」以下に書いてある、ドイツ語での文献情報の挙げ方を参考にしてください。

例)

Daldry, Stephen (Regie) / Hare, David (Drehbuch) (2008): *Der Vorleser*. [DVD], Originalroman von Bernhard Schlink (1997), Deutschland, USA: Universum Film.

10. さいごに

- 執筆にあたっては、執筆者自身の考察部分であるのか、先行研究に依拠した「引用」の部分であるかを、つねに意識して区別してください。
- 参考文献（インターネットによる情報も含む）に書かれた言葉を、出典を明記しないで書くことは無断引用であり、剽窃行為にあたります。
- 剽窃行為が明らかになった場合、その論文・レポートは不合格となります。

【付録】書式一覧表（日本語文献のみ。ドイツ語文献については各ページ参照）

書籍・論文		(→ S. 9 - 11)
脚注		著者の姓（発行年：ページ数） [発行年、ページは数字のみ]
参考文献一覧	単行本	著者（出版年）『書名』[第○版]（編集者・訳者）出版社。
	論文集内論文	著者（出版年）「論文名」編集者名『掲載元の書名』出版社、掲載ページの範囲。
	紀要・雑誌内論文	著者（出版年）「論文名」発行元『掲載元の書名』第○号、掲載ページの範囲。
インターネット情報		(→ S. 11 - 15)
脚注		著者の姓（掲載年）。
参考文献一覧		著者・管理者名（掲載年月日）：[『記事・論文・資料タイトル』] 「参照ページのタイトル」、URL（参照日：[参照年月日]）。
新聞		(→ S. 15 - 16)
脚注		著者の姓（掲載年月日）。[著者不明の場合、新聞名]
参考文献一覧		著者（掲載年月日）「記事タイトル」『新聞名』。[著者不明の場合、新聞名]
DVD		(→ S. 16)
脚注		監督の姓／脚本家の姓（発行年、チャプター番号、時間）。
参考文献一覧		名前1（監督）／名前2（脚本）（発売年）『タイトル』[DVD]、 （原作：[原作に関するデータ]）、発行地：発売元。

【付録 本文サンプル①】

1. はじめに

日本のドイツ文学研究において、ライナルト・ゲッツ (Rainald Goetz, 1954-) という作家はほとんど忘れられてしまっている、あるいはほとんど注目されてこなかったと言っても過言ではないだろう。彼の作品で現在唯一翻訳されているのは、戯曲『ジェフ・クーンズ (Jeff Koons)』のみである。この戯曲の翻訳者でもある初見基は、ゲッツを扱っている数少ない論考の中で、彼を次のように評価している。

その後 [1983 年のインゲボルク・バッハマン賞のための朗読の後] 出された 2 作の小説 [Irre (1983), Kontrolliert (1988)] によってゲッツの評価は定まるが、80 年代後半には戯曲も大いに注目された。小説では、それぞれ〈狂気〉、〈テロリズム〉という、おそらくはゲッツ自身の強烈な経験に基づくだろう動機を、きわめて断片的であるように見せながら構築性の強い作品に仕立て上げており、この 2 作は 80 年代でもっとも重要な作品に入ると思われる。

そう明言しているわけではないが [...], 〈書くべきことは書ききった〉との境地にでも達したのだろう、90 年代に入ってから、少なくとも 2 編の小説で見せていたような緊張感は作品から感じられなくなっている¹。

初見によれば、90 年代を境にゲッツの「小説」(と少なくとも著者が銘打っているもの) は、「〈作品〉構築の放棄」²による「〈解体〉」³にまで至っており、「そもそも虚構世界を作り上げることがいっさい断念されている観がある」⁴という。その最たる例が『皆にとつての／のためのごみくず (Abfall für alle)』であり、1998 年 2 月 4 日から 99 年 1 月 10 日までの 343 日間インターネット上で公開されたテキスト、今風に言えばブログの記事が、「ある一年の小説」として発表された⁵。

初見も指摘しているように、これはポジティブに捉えれば既存の文学的コードへの従属の拒絶というパフォーマンスとして評価しうるが、結局は「悪く言うなら言葉の垂れ流しにすぎない」⁶ものである。書くことの不可能性を追求し、それでもなお書き続けていると

¹ 初見 (2001 : 17)。

² 初見 (2001 : 18)。

³ 初見 (2001 : 19)。

⁴ 初見 (2001 : 17-18)。

⁵ 初見 (2006 : 248) 参照。

⁶ 初見 (2001 : 18)。

【付録 本文サンプル②】

7. PISA と教育報告書

ドイツで 2000 年代に教育改革が進められることとなったきっかけである PISA は、その後も 3 年ごとに調査が行われており、引き続きドイツは参加している。2000 年以降、徐々にドイツ全体の平均点が上がっている（表 1）。また、2000 年と 2012 年の総合読解力の平均点を比べると、移民の背景を持つ子どもは移民の背景を持たない子どもよりも点数が伸びていることが明らかになった（表 2）。

表 1 PISA2000～2015 の平均点の推移

	総合読解力（OECD 平均）	数学的リテラシー	科学的リテラシー
2000	484（500）	490（500）	487（500）
2003	491（500）	503（500）	502（500）
2006	494（492）	504（498）	516（500）
2009	497（493）	513（496）	524（501）
2012	508（494）	514（496）	524（501）
2015	509（493）	506（490）	509（493）

出典：文部科学省（2017）を参考に筆者作成。

表 2 PISA2000 と 2012 の総合読解力の平均点の推移

	全体	移民の背景なし	移民の背景あり
2000	484	509	444
2012	508	522	474

出典：DIPF(2016)を参考に著者作成。

PISA の結果公表を改善に結びつけるために、KMK は 2002 年に教育報告書を作成することを定めた。この教育報告書は 2006 年以降、連邦と州レベルで 2 年ごとに作成されているが、今回は連邦レベルの教育報告書に注目したいと思う²⁵。2016 年の教育報告書は移民の背景を持つ人の教育がテーマとなっている。ドイツ語の習得は学校教育とドイツ社会への参加において重要な役割を果たす。2015 年の段階で、移民の背景を持つ 4 歳から 5 歳の子どものうち、63%の子どもが家庭でドイツ語以外の言葉を使用している²⁶。よって現在もなお、就学前教育や学校教育におけるド

²⁵ 坂野（2012：47）参照。

²⁶ DIPF（2016：166）参照。

【付録 本文サンプル③】

参考文献

一次文献

Goetz, Rainald (1998): *Rave*. Frankfurt a. M.: Suhrkamp.

Goetz, Rainald (1999): *Abfall für alle. Roman eines Jahres*. Frankfurt a. M.: Suhrkamp.

Hegemann, Helene (2011): *Axolotl Roadkill*. Berlin: Ullstein.

二次文献

Baßler, Moritz (2002): *Der deutsche Pop-Roman. Die neuen Archvisten*. München: C. H. Beck.

Feiereisen, Florence (2011): *Der Text als Soundtrack. Der Autor als DJ. Postmoderne und postkoloniale Samples bei Thomas Meinecke*. Würzburg: Koenigshausen & Neumann.

Klein, Gabriele (2004): *Electronic Vibration. Pop Kultur Theorie*. Wiesbaden: VS Verlag für Sozialwissenschaften.

Kösch, Sascha (2001): Ein Review kommt selten allein. Die Regeln der elektronischen Musik. Zur Schnittstelle von Musik- und Textproduktion im Techno. In: Jochen Bonz (Hg.): *Sound Signatures. Pop-Splitter*. Frankfurt a. M.: Suhrkamp, S. 173-189.

野田努 (2001) 『ブラック・マシン・ミュージック：ディスコ、ハウス、デトロイト・テクノ』河出書房新社。

初見基 (2001) 「〈戦後文学〉の終わり？——90年代文学のいくつかの特徴——」初見基編『〈戦後文学〉を越えて——1989年以降のドイツ文学——』日本独文学会、3～19ページ。

初見基 (2006) 「訳者解説：空疎さのなかの〈光あれ〉」ゲッツ、ライナルト (2006) 『ドイツ現代戯曲選 23 ジェフ・クーンズ』(初見基訳) 論創社、241～256ページ。

インターネット情報

Cable News Network (2013年2月7日)「論文盗作で博士号剥奪のドイツ教育相 大学相手に訴訟の構え」CNN.co.jp、URL：<http://www.cnn.co.jp/world/35027939.html> (参照日：2016年4月7日)。

【付録 本文サンプル③】

Pirmasens, Deef (5. 2. 2010): Axolotl Roadkill: Alles nur geklaut?, Die Gefühlskonserven, URL:

<http://www.gefuehlskonserve.de/axolotl-roadkill-alles-nur-geklaut-05022010.html> (abgerufen am 12. 9. 2015).

Rapp, Tobias (18. 1. 2010): Das Wunderkind der Boheme, Spiegel Online, URL:

<http://www.spiegel.de/spiegel/a-672725.html> (abgerufen am 24. 11. 2014).